

**CPR、AED、First Aid プロバイダー諸氏への
COVID-19(新型コロナウイルス感染症)に関する声明**

2020年3月

Health & Safety Institute (HSI 社)

※この記事は主として米国内事情を反映して記載されています。

HSI 社 (MFA アメリカ本社を傘下に擁しています) は、MFA 応急手当てプロバイダー諸氏を対象に下記のようなメッセージを出しています。この文書は米国疾病センター (CDC) からの情報に基づいて作成されています。MFA JAPAN も同調してこのメッセージを翻訳、ウェブサイトに掲載することになりましたので、出来ることを実行してください。

米国疾病センター (CDC) は現在も、COVID-19 がどのように拡散しているのか、病気の重さ、(米国内で) どの程度拡散するのか等について調査中です。CDC によると、COVID-19 の症状は季節的なインフルエンザ (熱、咳、筋肉痛、息切れなど) の症状に似ていて、曝露 (露出) してから 2 日から 14 日の間に出現するようです。報告されているケースでは、軽度の症状から重症の病気まで幅があり、最も重篤なケースは死亡で、主に 60 歳以上、あるいは既往症 (基礎疾患) を抱えている人に発生しています。

COVID-19 は、主に 2 メートル以内の接近による人対人感染で、感染した人の咳やくしゃみで発生する飛沫によって拡散すると考えられています。症状が出ている人は最も感染力が強いと考えられていますが、症状が出る前でも感染させることもあるとしています。また、ウイルスが付着している物体に接触して間接的に感染することもあり、そうした物体に触れた手で口や鼻、あるいは目に触ることで感染することがあります。COVID-19 を発生するウイルスは、簡単に拡散し、影響を受けたコミュニティで継続的に拡散するようです。

COVID-19 を予防するワクチンはありません。最善の予防策は、症状のある人との接触を避ける、汚染した物体や表面に触るなどして間接的に接触するのを避ける、自分自身へのウイルスの曝露を低下するために取れる個人的な手段をとるという方法で、ウイルスへの曝露を避けることです。

誰かに健康上の緊急時が発生し、あなたが助けようと思ったなら、感染の疑いがあるか否かに拘わらず行うべき感染予防のためのスタンダード・プリコーション (標準予防策) を遵守することが重要な最初のステップです。これには、使い捨ての手袋、目の保護具、保護用フェイスマスク、あるいはレスキュー呼吸を行う時には逆止弁付きの CPR マスク、といった個人用の保護具 (バリア) を使用することが含まれます。

・私達は素手で環境にある物体に触りがちです。健康上の緊急時に手を貸す時には特に、使い捨ての手袋を使用して汚染した物体等への接触を最小限にできます。特に手袋を外すときには十分に注意を払い、さらなる汚染への曝露を防いでください。

・めがねやフェイスシールド、ゴーグルなどは、咳やくしゃみによる飛沫から目を守ってくれます。花粉症用のめがねも利用できます。

・N95 respirator というようなフェイスマスクがあるなら、着脱について CDC の奨励事項にしたがって下さい (米国、プロレベル)。通常のフェイスマスクの着脱についても、手袋を同じように、十分に注意を払って間接的曝露を予防して下さい。

・新型コロナウイルスによる疾病 (COVID-19) は呼吸器系の病気であることから、CPR の一部としてレスキュー呼吸を行うことが心配になります。逆止弁 (一方弁) 付きの CPR マスクはレスキュー呼吸を行う人が呼吸系の飛沫に曝露しないように設計されています。その他の個人的バリア類と同様に、マスクの使用時や使用後に間接的な曝露を受けないように最新の注意を払わなくてはなりません。

・成人の突然の心停止では、レスキュー呼吸を行いたくないか、できない場合には、圧迫のみの CPR をお勧めします。 圧迫だけの CPR でも、体内に残っている酸素を循環できるので、AED の到着までの時間を稼ぐことが出来ます。

・手袋やその他の保護具を外した後は、少なくとも 20 秒間、両手を石鹸と水でよく洗って下さい。 石鹸や水が手近にない場合は、アルコールの含有量が 60% 以上のアルコール基材の手指消毒剤を使ってください。

COVID-19 についての理解には、まだまだ見解が分かっていたりするため、この状況は流動的であり、奨励事項が更新・追加されることがあります。それには、CDC が表現している社会的距離、つまり、ストアや学校、教会の集まり、講習などのように人が集まる場所から距離を置き、可能なら他者からの距離をおよそ 2 メートル取ることが含まれます。

応急手当てプロバイダー諸氏に拘わらず、すべての方が CDC (日本では厚労省) からの最新の COVID-19 情報に注意を払い、状況についてより多くのことが分かるに従い、日々、個人的、職業的な調整をして頂きたいと思うものです。 ◆